プーランクの歌曲

過ぎ去りし愛の思い出を歌う**「愛の小径」**は、1940 年にジャン・アヌイの戯曲『レオカディア』の劇付随音楽として作曲され、初演時から評判となり今日まで親しまれている。ギヨーム・アポリネールの詩に付曲した**歌曲集《平凡な話》**（1940）は、民謡風のエキゾチックな旋律の「オルクニーズの唄」、部屋に漂うタバコの煙のようにまったりとした「ホテル」、早口でまくしたてるような「ワロニーの沼地」、明るくパリを讃える「パリへの旅」、神秘的に内面深くへと切り込む「すすり泣き」の 5 曲からなる。

ドビュッシー：もう家のない子たちのクリスマス

1915 年に作曲されたドビュッシー最後の歌曲。第一次世界大戦の戦禍に巻き込まれたフランスの子どもたちを主人公にして戦争に対する激しい怒りをぶつけた歌詞はドビュッシー本人による。

サティの歌曲

「エンパイア劇場のプリマドンナ」（1904）は、往時のパリのカフェの雰囲気を伝える佳曲。「あなたが大好き」という意味の**「ジュ・トゥ・ヴー」**（1897）は、サティの代名詞とも言えるシャンソン。

C.ドゥーセ：ショピナータ

ベルギーのピアニスト、クレマン・ドゥーセによる**「ショピナータ」**は、ショパンのポロネーズやワルツなどおなじみの旋律をジャズのアドリブ風にアレンジしたピアノ曲。

G.シャルパンティエ：歌劇《ルイーズ》 より 「その日から」

ギュスターヴ・シャルパンティエは、19 世紀後半から 20 世紀前半に活躍したフランスのオペラ作曲家。1900 年に初演された歌劇《ルイーズ》は、19 世紀末のモンマルトルを舞台にパリの労働者階級を描く。**「その日から」**は、その第 3 幕で主人公のお針子ルイーズが歌う、恋人に向けた愛の歌。

プーランクの歌曲

歌曲集《画家の仕事》（1956）は、7 人の著名な画家を取り上げたポール・エリュアールの詩に付曲した作品。本日は、ピカソ、シャガール、ミロを歌った 3 曲を抜粋でお届けする。**「いいえ、旦那様」**は、ギヨーム・アポリネールの同名戯曲を原作としたオペレッタ**《ティレジアスの乳房》**（1947 年初演）の

第１幕で主人公テレーズが歌う有名曲。